

会津若松市の未来に向けて

あいつわかまつ
会津若松市長(福島県) **むろいしょうへい**
室井照平



大自然とスポーツに育まれて ―市長就任までの歩み

幼少期から生き物への強い興味を持ち、昆虫図鑑を擦り切れるまで何度も読み返しては、魚や虫を捕まえるために網とバケツを手に近所を駆け回っていました。思い返せば、自然と向き合いながら育まれた探究心は、私のその後の人生の土台となっています。



鶴ヶ城を望む市長室からの風景

小学生の頃は、クラスの野球チームで活動していましたが、中学校へ進学後は、体力面を心配した両親の勧めでテニス部に入部しました。結果的に、私にはテニスが向いていたのか、市内大会では個人・団体共に優勝を果たしました。高校入学後もソフトテニスを続け、県総体優勝、東北大会準優勝、全国インターハイではベスト32という成績を収めることができました。部活動に打ち込む一方、冬季は学校の図書館に引きこもって多くの書籍に触れ、家業が商売を営んでいた影響から、経済分野への関心を深めました。

大学進学を機に生まれ故郷である会津を離れ、県外の金融機関に就職しましたが、家業承継のため、就職後2年余りで帰郷しました。以降、平成6年に会津青年会議所の理事長を務めた後、平成11年から市議会議員2期、平成18年から県議会議員1期を経て、平成23年に会津若松市長に就任し、早いもので、現在4期目の折り返しを迎えました。

会津若松市には、多くの先人が築いた絆により、全国各地にゆかりのある自治体がありますが、私自身、市長として交流を重ねるたびに、その歴史と文化の重みを実感しています。

令和7年5月には、長年の念願であった市役所新庁舎が多くの皆さまの

お力添えの下完成の運びとなり、会津のシンボルである鶴ヶ城を望む環境の中で、日々、市政と向き合っています。

忙しい日々を支える健康管理習慣

市長として忙しい毎日を乗りきるため、私は自分自身の身体の状態を把握することを大切にしています。具体的には、スマートフォンでの健康管理アプリを活用して、体重や血圧、体脂肪率、内臓脂肪レベル、BMIなどを定期的に計測し、数値として「見える化」することで、日々セルフチェックを行っています。

食生活の面では、朝食を1日の活力の源と考え、必ずしっかりと取るよう心掛けており、昼食は適量、夕食は高カロリーなものを控えるようにし、間食も極力しないようにしています。減塩にも意識を向け、例えば、サラダとコロッケを一緒に食べるなど、ちょっとした工夫を取り入れています。出張時には立ち食いそばを利用することも多いですが、スープは飲み干さず、残すようにしています。また、十分な睡眠時間の確保にも努めており、比較的規則正しい生活を送っています。

さらに、なんといっても1日を締めくくると会津の日本酒の適量(?)の晩酌です。仲間や家族と味わう会津の日本酒は、1日の疲れをしっかりと癒やしてくれます。福島県の日本酒は、令和7年、全国新酒鑑評会



「鶴ヶ城ハーフマラソン大会」でのひとコマ

において、金賞受賞歳数が3年ぶりに日本一となりました。このような上質の日本酒を醸した酒蔵と、晩酌を通じた対話を楽しんでいます。

運動面では、令和7年、古希を迎えましたので、年齢と向き合いながら無理なく体を動かすよう心がけています。市役所では、市長室のある4階まではエレベーターを使わず、毎日息を弾ませながら、一生懸命階段を上り下りしています。また、中学生の頃に始めたテニスを現在でも続けており、市役所のテニスクラブで月に数回、汗を流しています。さらに、毎年10月に本市で開催されている「鶴ヶ城ハーフマラソン大会」には、市長就任以降、必死に体調を整えながら、毎年欠かさず参加しています。令和7年は5kmの部にエントリーし、沿道の皆さまの温かい声援に支えられ、無事完走することができました。

選ばれるまちを目指して

会津若松市は、東北地方・福島県西部に

位置し、磐梯山や、令和7年にラムサール条約湿地へ新規登録された猪苗代湖に代表される豊かな自然と歴史と文化が息づく都市です。産業面では、観光業や農業、電子精密機械産業に加え、情報通信技術（ICT）関連産業の集積が進んでいます。また、平成5年に日本初のICT専門大学として開学した会津大学の存在は大きな特色の一つです。

一方で、本市は他の多くの地方自治体と同様、人口減少という深刻な課題に直面しており、特に、出生数の減少や若年層の転出超過が続いています。こうした状況を踏まえ、本市では、平成25年より、「スマートシティ会津若松」を掲げ、ICTを活用した雇用創出や人口の維持、地域経済の活性化に取り組んできました。

また、地域の魅力を積極的に発信するため、シティプロモーションにも力を入れており、本年2月、北海道札幌市で開催された「さっぽろ雪まつり」では、鶴ヶ城の大雪像を制作・展示し、多くの方々に本市の魅力を発信してきました。

本市には歴史や文化をはじめとする素晴らしい地域資源がありますが、住み続けていると、こうした強みが当たり前になってしまう、その価値を見失いがちです。市民の皆さまからは、「映画

館やデパートがない」といった声をいただきますが、私は「ないもの」に目を向けるのではなく、豊かな地域資源の価値を再認識し、持つてほしいと強く言い続けています。人口およそ11万人の小さな地方都市ではありますが、山積するさまざまな課題に正面から向き合いながら、市民の皆さまとの協働の下、選ばれるまちの実現に向けて、これからも挑戦を続けていきます。



「さっぽろ雪まつり」で制作された大雪像